

南海トラフ地震 ハザードマップ

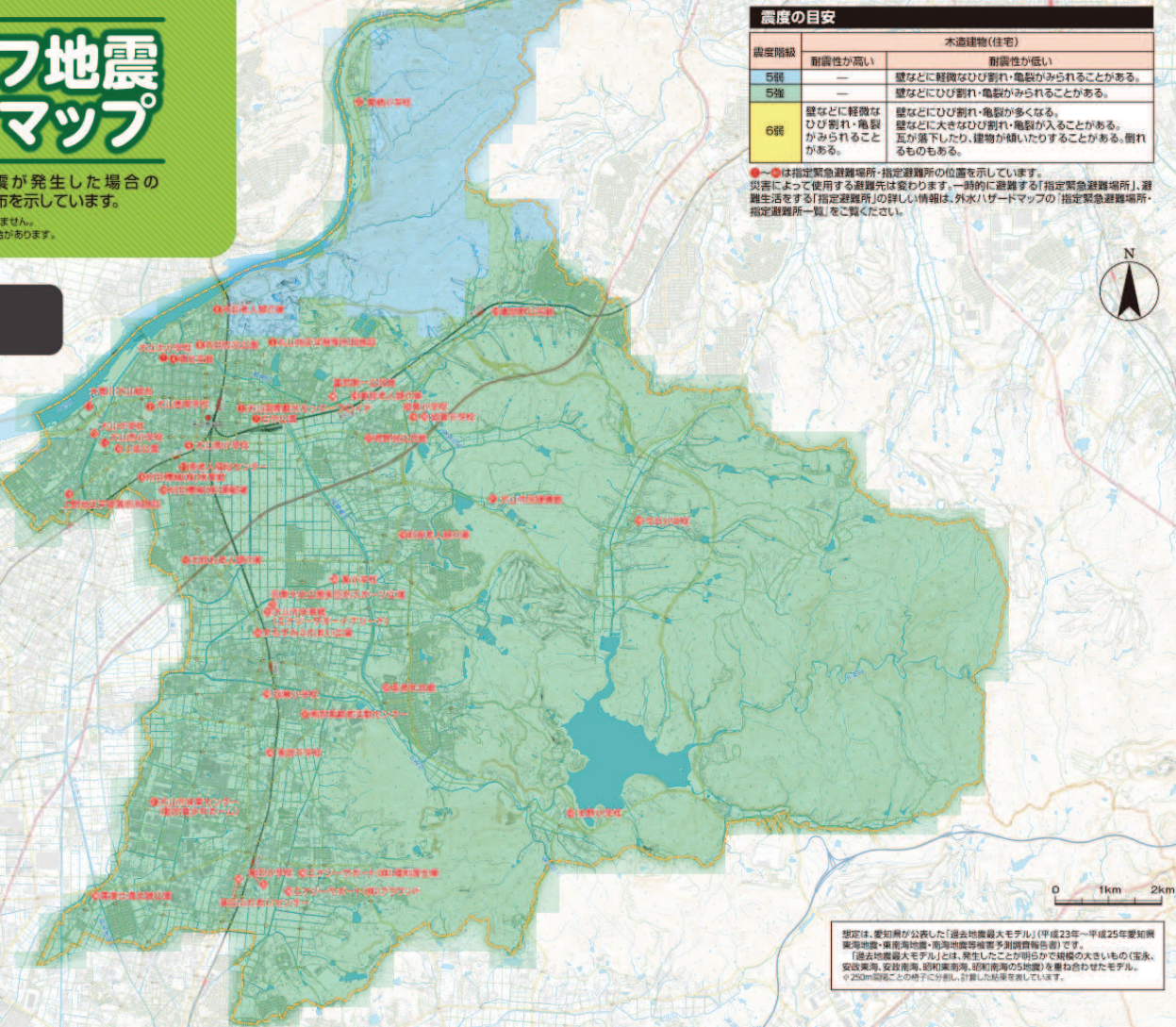
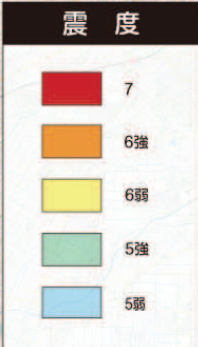
このマップは南海トラフ地震が発生した場合の「震度」と「液状化の危険度」の分布を示しています。

*予想される、震度及び液状化が必ず起こるものではありません。
また、予想区域以外においても災害が発生する場合があります。

震度階級	震害の目安	
	耐震性が高い	耐震性が低い
5弱	—	壁などに軽微なひび割れ・亀裂がみられることがある。
5強	—	壁などにひび割れ・亀裂がみられることがある。
6弱	壁などに軽微なひび割れ・亀裂がみられることがある。	壁などにひび割れ・亀裂が多くなる。壁などに大きなひび割れ・亀裂が入ることがある。瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

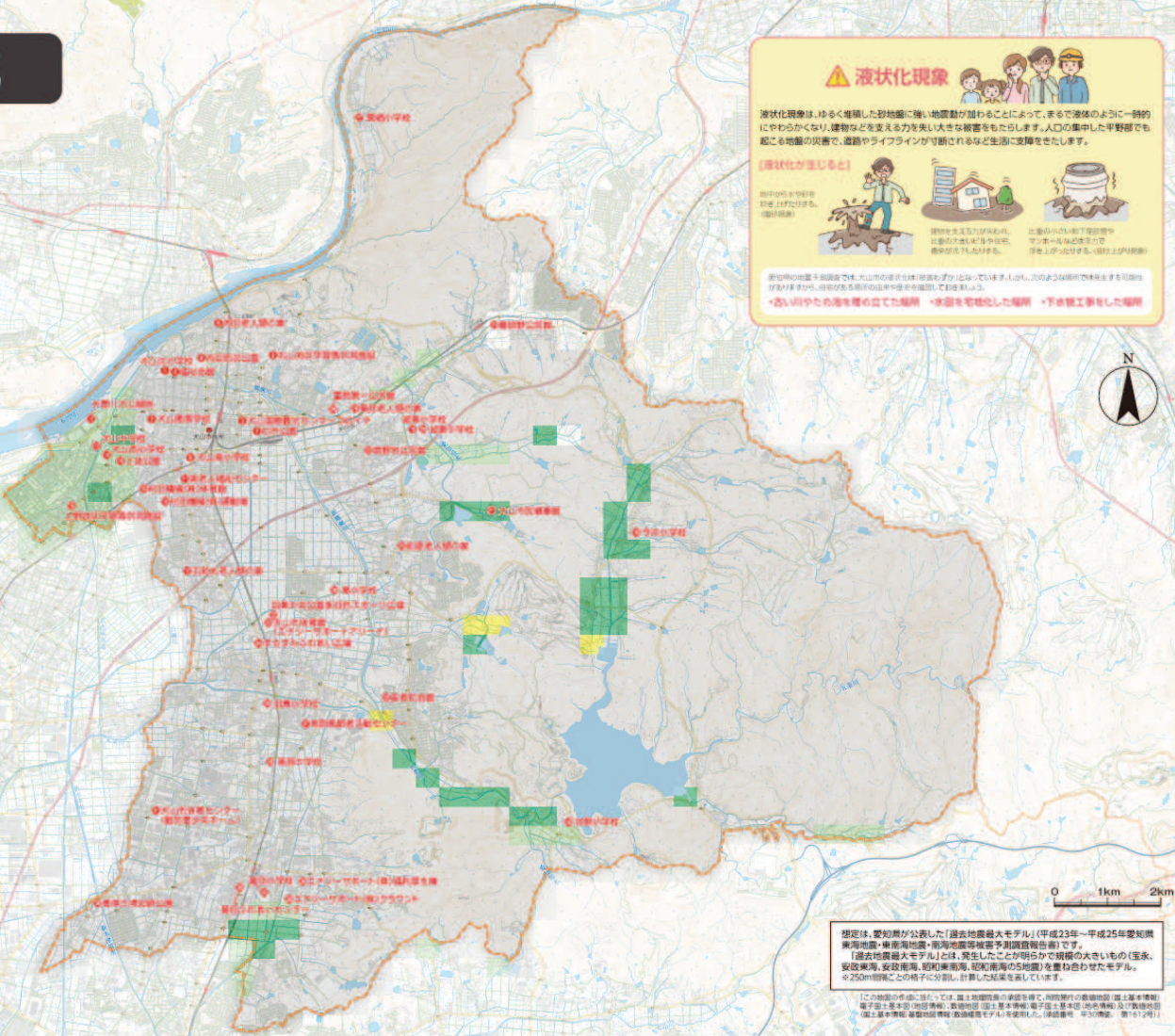
●～●は指定緊急避難場所・指定避難所の位置を示しています。
災害によって使用する避難先は異なります。一時的に避難する「指定緊急避難場所」、避難生活を営む「指定避難所」の詳細は、外水ハザードマップの「指定緊急避難場所・指定避難所一覧」をご覧ください。

震度



想定は、愛知県が公表した「過去地震最大モデル」（平成23年～平成25年愛知県南海地震・静岡地震・南海地震等予測調査報告書）です。
「過去地震最大モデル」とは、発生したことが明らかで規模の大きいもの（宝永、安政東海、安政南海、昭和東南海、昭和南海の5地震）を重ね合わせたモデル。
※250m間隔ごとの格子に分割し、計算した結果を表示しています。

液状化



液状化現象

液状化現象は、ゆるく堆積した砂地盤に強い地震動が加わることによって、まるで液体のように一時的にやわらかくなり、建物などを支える力を失い大きな被害をもたらします。人口の集中した平野部でも起こる地盤の災害で、道路やライフラインが断れるなど生活に支障をきたします。

【液状化が起ると】

- 地盤がゆるみ、建物や道路が沈下しやすくなる。
- 建物や道路の基礎が沈下し、傾いたり、壊れたりする。
- 地盤がゆるみ、地下水位が上昇し、水が湧き出たり、土が流出したりする。

【液状化を避けるための対策】

- 古い埋め立て地を避ける
- 液状化を電磁化した場所
- 下水道工事をした場所

想定は、愛知県が公表した「過去地震最大モデル」（平成23年～平成25年愛知県南海地震・静岡地震・南海地震等予測調査報告書）です。
「過去地震最大モデル」とは、発生したことが明らかで規模の大きいもの（宝永、安政東海、安政南海、昭和東南海、昭和南海の5地震）を重ね合わせたモデル。
※250m間隔ごとの格子に分割し、計算した結果を表示しています。

この地図の作成に当たっては、国土院の委託を受けて、地質院の地質図（国土地理院「国土地理院電子国土基本図」(地質情報)）、「数値地図（国土基本情報）電子国土基本図（地質情報）及び数値地図（国土基本情報）数値地形図（数値地形基本図）」を参照し、作成しました。（発行：令和 年1月1日）